

9月16日～30日の国内外外国為替市場動向

	為替市況	主要経済指標など	主要発言など	為替レート		
				ドル円	ユーロ円	24H
05/09/16 (金)	東京は揉み合いつつもドル小じっかり。3連休を前にした仲値不足などから午前を中心にドル買い先行。欧米にドルは続伸。ハリケーンの影響が限定的に留まったと見られる米経済指標などが好感された。	・第2四半期米経常赤字 1957億ドル、7月の対米証券投資874億ドル、9月のシカゴ大景況指数76.9		110.71 110.46 111.47 111.35	135.39 135.38 136.43 136.26	24H 寄付 安値 高値 終値
05/09/19 (月)	東京は休場。アジアタイムのドル/円は111円台での膠着。ただ独政局不安からユーロが冴えない。欧米はユーロが独歩安。ストップロスを巻き込みつつ対円でも一時大幅に弱含んだ。	・東京市場が休場 ・前日の独総選挙で野党が勝利、しかし単独過半数には届かず		111.55 111.17 111.68 111.53	135.70 135.03 135.73 135.41	24H 寄付 安値 高値 終値
05/09/20 (火)	東京は円が小高い。日経平均株価が4年ぶりに13000円台を回復したことが好感された。欧米はFOMCにおける米利上げからドル買い優勢。ドル/円は一時112円台も。	・FOMCで25BPの利上げ実施、声明も利上げ継続を示唆する内容、ただオゾンFRB理事がひとり金利据え置きを主張 ・9月の独ZEW景況感調査38.6 ・8月の米住宅着工200.9万戸	・竹中経財相「頑固なテフレは続いている」	111.55 111.11 112.01 111.95	135.50 135.16 135.97 135.63	24H 寄付 安値 高値 終値
05/09/21 (水)	東京でドルは急落。ハリケーン発生を嫌気した売りに加え、FOMC終了で利益確定の動きかさむ。欧米でもドルは下げ止まらず。ハリケーン並びに原油価格の動向に一喜一憂する展開。	・米国で再びハリケーン「リタ」発生、カテゴリ-は最強の5 ・衆院本会議で小泉首相を再指名 ・東京23区の基準地価が15ぶりの上昇、他大都市圏にも底入れ感	・谷垣財務相「中国は新為替制度の習熟過程」 ・米財務次官「G7でハリケーンの影響は一時的との立場を表明」	111.88 110.97 111.98 111.30	135.56 135.54 136.30 135.95	24H 寄付 安値 高値 終値
05/09/22 (木)	東京は一時大きく円安にふれるも結局行って来い。貿易黒字激減から円安進行。しかしその後巻き戻す。欧米はドル高。ハリケーンの影響が薄らぎつつあることが材料視されドル買いに安心感を与えていた。	・8月の貿易黒字は激減の1163億ドル、7月の第三次産業活動指数0.8% ・ハリケーンのカテゴリ-が4に ・8月の米景気先行指数 0.2%	・岩田日銀副総裁「コアCPIは年末ごろにかけゼロないし若干のプラス」	111.08 111.06 111.83 111.72	136.21 135.40 136.56 135.81	24H 寄付 安値 高値 終値
05/09/23 (金)	アジアタイムは小動き。ドル/円だけでなく主要通貨に目立った動きなし。人民元サブプライムで欧州早期は大荒れ。しかし混乱は続かず。その後はドルがほぼ一本調子の上昇続ける。	・東京市場が休場 ・中国がドル以外の取引変動率を上下1.5%から3.0%へと拡大すると発表 ・ハリケーンがカテゴリ-3とさらにダウングレードされる		111.68 111.00 112.53 112.48	135.61 134.92 135.71 135.43	24H 寄付 安値 高値 終値
05/09/26 (月)	東京はほぼ揉み合い。先週末に実施されたG7も声明に新鮮さはなく、材料視されず。欧米はドル小幅安。シカゴ連銀総裁発言などにもかかわらず原油が続伸したことを嫌気、ドル売り優勢に。	・G7共同声明「為替レートは経済ファンダメンタルズを反映すべきとの考え方」 ・8月の米中古住宅販売716万戸	・シカゴ連銀総裁「米経済はハリケーン襲来後もなお強い」 ・FRB議長「大部分の米国人は住宅価格下落にも深刻な影響を受けることなく耐え得る」	112.30 112.09 112.60 112.17	135.15 135.00 135.71 135.40	24H 寄付 安値 高値 終値
05/09/27 (火)	東京は一転してドル独歩高。とくに対ユーロで積極的に買い契められ、一時は2ヶ月ぶりの1.19ドル/円も。欧米はドル高というより円安。強気発言がドル買いに寄与していたうえ、ソニー格下げの噂が円の弱材料に。	・アルカイダ幹部死亡のウラ ・8月の独IFO景況指数96.0 ・ソニーの格付けが引き下げられるとのウラあり ・8月米新規住宅販売123.7万件、9月の米消費者信頼感指数86.6	・カンザスシティ連銀総裁「ハリケーンで米インフレリスク高まる」 ・CEA委員長「米経済は非常に強い」 ・FRB議長「資産バブルの制御は非現実的」	112.35 112.35 113.52 113.30	135.66 135.39 136.24 136.11	24H 寄付 安値 高値 終値
05/09/28 (水)	東京は調整的な円買い先行。オシシンの偏りが指摘されるなか須田発言が円買戻しのキッカケに。欧米は再び円安。注目の米2年債入札が順調でとくに海外中銀の買いが好調。これが材料視された。	・第2四半期英GDP1.5% ・8月の米耐久財受注3.3% ・DJニュース「ファニーメイの調査で新たな広範囲の会計規則違反が発覚した」	・須田日銀審議委員「量的緩和解除の時期は近づきつつある」 ・FRB副議長「健全な通貨は米経済の強さに欠かせない要素」 ・米財務長官「インフレが抑制されている限り金利は低水準に留まる」	113.33 112.87 113.45 113.12	136.13 135.81 136.23 136.14	24H 寄付 安値 高値 終値
05/09/29 (木)	東京は円が小幅続落。量的緩和解除を期待させる要人発言も見られたが新味乏しく影響は限定的に。欧米は揉み合い。福井発言でやや円買いが先行するも続かず。その後は四半期末控え動意薄。	・8月の独失業者数3.9万人、同失業率11.7% ・第2四半期米GDP確報値3.3%	・日銀総裁「緩和解除の時期、06年度以前の段階をまったく否定してはいない」 ・細川財務官「テフレ克服に最大限の努力が必要な状況に変わらない」	113.00 112.67 113.23 113.00	136.24 135.74 136.32 135.95	24H 寄付 安値 高値 終値
05/09/30 (金)	東京は円が小安い。期末待ちで薄商いのなか、閣僚から量的緩和解除の否定発言相次ぎ嫌気された。欧米で円は続落。米金利上昇による日米金利差拡大をきっかけに対ユーロでも円は弱含み推移。	・8月失業率4.3%、同鉱工業生産1.2% ・8月の米個人所得 0.1%、同個人消費 0.5%、9月シカゴPMI60.5、同シカゴ大消費者信頼感指数確報値76.9	・大阪高裁「小泉首相の靖国神社参拝は憲法違反」 ・細田官房長官「基本的に金融政策運営を変える状況ではない」 ・竹中経財相「テフレ克服へ政府と日銀一体で取り組む」	113.32 112.92 113.69 113.49	136.21 135.99 136.85 136.48	24H 寄付 安値 高値 終値

* 製作・著作；「FXニュースレター」

URL； <http://www.fx-newsletter.com/>